



海老沼小だより

～かしこく やさしく たくましく生き抜く子
笑顔と歌声あふれる学校～

8月号

令和3年8月26日

さいたま市立海老沼小学校



海老沼の歌声～♪

校長 宮本 江津子

40℃に届くかと思うほど暑い日が続いたり、何日も何日も雨の日が続いたり・・・と、お天気も異常な夏でした。コロナの感染も収まらず、帰省や旅行、思うように出かけたり遊んだりして楽しむこともできなかった夏休みだったことと思います。そんな中、1年延期されたオリンピックが行われ、テレビの前に釘付けになって、たくさんの感動をもらうことができた夏でもありました。

4年に1度のオリンピック（今回の場合は5年目になってしまいましたが）を目指してたくさんの選手が、それぞれの思いを胸に目標に向かって挑戦したのだと思います。4年という歳月は、とても長いです。1年延期になり、1年本番が先になったことは、選手一人ひとりにとって、どういうことだったのかは、図り知れません。本番にピークを合わせることの難しさ、モチベーションを保つことの難しさ、そして、オリンピックが開催されるのかどうかという不安・・・本当に、大変だったんだろうなぁと想像することしかできませんが・・・それでも、結果が出る（ついてくる）のが、スポーツで・・・目標以上の結果が出せた！という人（チーム）もいれば、力を出し切れなかった人（チーム）もいるのです。悔しい思いをした人たちは、どんな思いでいるのでしょうか。目標が達成できた人は、これからどうしようと考えているのでしょうか。

さて、そんな夏、昨年度は中止となり参加が叶わなかった「NHK 全国学校音楽コンクール」が8月5日に開催され、本校の合唱部も出場しました。子どもたちにとって、2年ぶりのステージです。もちろん、無観客。私も引率しましたが、舞台の袖から、その声を聴いただけで、子どもたちの歌う姿を見ることはできませんでした。「今年の6年生の思いも胸に、しっかり歌っていらっしやい♪」と声をかけ、ステージへ送りだしました。審査員だけしかいない客席に向かって歌った子どもたちでしたが、歌える喜び、声を合わせることの楽しさ、舞台の上から客席に向かって歌える気持ちよさ（と緊張感）を実感しているのを、演奏後のホッとした表情、晴れやかな笑顔から感じました。

このコンクールも、緊急事態宣言が発出される直前で、開催が危ぶまれていました。お家の方や先生方、友達など、たくさんの支えてくださった方々に、歌声を届けることはできませんでした。子どもたちが体験した喜びは、かけがえのないものだったと思います。

結果は、奨励賞でしたが、参加することができて・・・何より、ステージの上で歌うことができて、本当に幸せだったと思います。海老沼の歌声は、本当に透きとおった美しい歌声でした。この歌声を、みなさんに届けられる日が1日も早く訪れることを願っています。

コロナの渦中にあり、感染拡大が大変心配される中での、2学期のスタートとなってしまいました。子どもたちが、安全に楽しく学校生活を送れるよう、感染症予防対策を徹底してまいります。どうぞ、皆様も、お体にお気をつけてお過ごしください。